



よろんちょう 議会だより

第107号

2013年／平成25年6月25日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301

鹿児島県大島郡与論町茶花32-1
TEL&FAX 0997(97)3201



十両に昇進した千代皇王代仁関（中央）

一般会計予算総額は
37億6181万円

3月
定例会

平成25年度事業箇所

(6P・7P)

一般質問

7人が登壇！町政を問う

(11P～17P)

一般会計予算は 37億6181万円 前年度比4.7%増

平成二十五年第一回定例会は、三月六日から十五日までの十日間の会期日程で開かれた。

本定例会に提出された議案等は、平成二十五年各会計予算案7件と、平成二十四年度補正予算案3件、条例の改正案11件、承認1件、認定2件、その他2件である。

平成二十五年各会計予算案は町長の提案理由の説明の後、総括質疑が行われ、予算審査特別委員会へ審査を付託、十五日の最終本会議で予算審査特別委員長の審査の結果報告があり、採決の結果、いずれも原案のとおり可決された。

このほか、平成二十四年度補正予算案等全て原案のとおり可決された。

一般質問には七人が登壇、行財政全般にわ

たって活発な意見が交わされた。

一般会計予算

歳入歳出予算総額を37億6181万円とするものである。

特別会計予算

◎国民健康保険特別会計予算
歳入歳出予算総額を8億5707万円とするものである。

◎介護保険特別会計予算
歳入歳出予算総額を6億5724万円とするものである。

◎後期高齢者医療特別会計予算
歳入歳出予算総額を5253万円とするものである。

◎農業集落排水事業特

別会計予算

歳入歳出予算総額を2323万円とするものである。

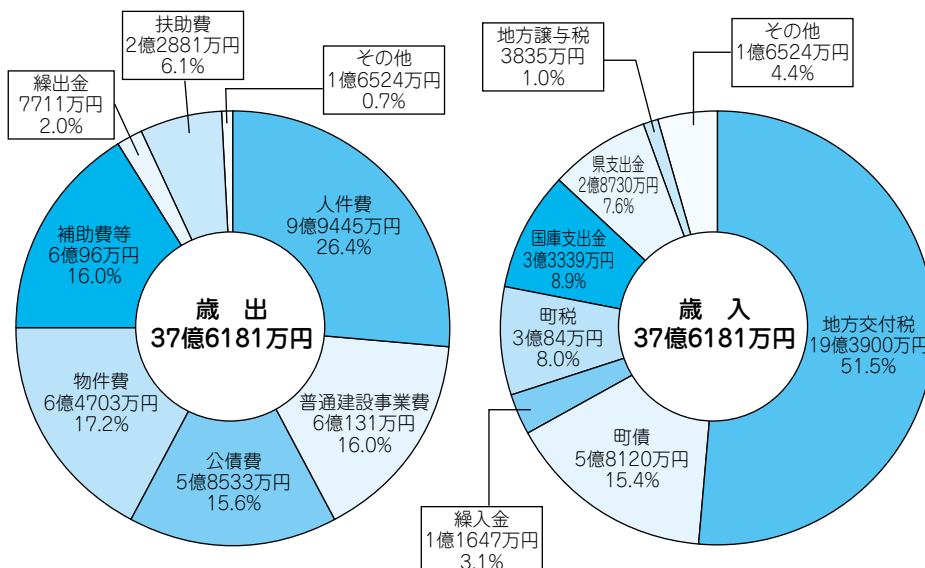
◎と畜場特別会計予算

歳入歳出予算総額を33万円とするものである。

◎水道事業特別会計予算

歳入歳出予算総額を1億6283万円とするものである。

平成25年一般会計当初予算



予算審議での主な質疑

総務企画課

うものがどれだけ残されているか。

問 島づくり対策費に335万6000円計上しているが、島を活性化させるためにどのような方策を考えているか。できればお金を島内で動かしてもらいたい。

答 島外から専門家を招いて講演をしてもらうとか、畜産業者を先進地等の視察にも案内したい。

問 47億円相当の予算要求額を10億円削って37億円にしたとのことだが、予算措置のできなかった主な事業としてはどういうものがあるか。また、予算編成上後日補正で対応することとしているものもあると思うが、どうい

答 大きな事業等については削減していかない。繰出金等を調整し5月末の決算状況を見て繰り入れる方向で検討している。特別会計の繰入れ等については、後の補正等で対応することとしている。

問 平成25年度は周年事業が重なる年だが、その取組の概要はどのようなものか。

答 町制施行50周年記念式典・祝賀会の開催日は11月23日（勤労感謝の日）を予定している。

まだ実行委員会等での正式な了承は得ていないが、昨年6月に運営委員会等の規約を作成し準備検討委員会を

1回開催した。記念式典、記念講演、祝賀会という構成で考えており、40周年時の取組を参考にしながら記念行事の質を高めていこうと考えている。

問 奄振法の改正に向けて本町は何をどう行っているか。

答 奄美の全市町村で委員会をつくり検討している。

税務課

問 （県出向の税務対策監兼収納対策室長に対し）本町の税の徴収率はこれから更に上がっていく見通しであるか。

答 平成23年度・24年度は不納欠損処理等を行った結果徴収率が上がったが、今後上げるのは難しいと思う。徴収と課税の事務を1人の職員で兼ねて行うのは難しいので、徴収専

門の担当者を今後とも1人は配置してもらいたい。

町民福祉課

問 身体障害者（児）のバスの同乗者に対する補助は考えていないか。

答 前向きに検討し、必要があれば条例・規則等をつくり補正予算で対応したい。

問 ハレルヤ保育園の運営費負担金の予算が900万円減額になった理由は。

答 平成24年度の実績に応じて予算を組んだ結果、減額となったものである。

国民健康保険特別会計の財政は依然として大変厳しい状況にあるが、現在の国民健康保険制度について課長はどう考えているか。

また、今後の在り方

を検討するため委員会等をつくるつもりはないか。

答 国保の保険者は、町ではなく県にしている。現在ある国民健康保険運営協議会をもつと充実したものとするか、又は新しくつくるか、何らかの見直しが必要だと思うので検討したい。

環境課

問 岸元地区は土地改



岸元地区の土地改良

良後に植栽事業が必要であると思うが、その計画はないか。

答 産業振興課と相談しながら進めていきたい。

問 犬の飼い方については、法令に従ってもっと厳しくしてもらいたい。役場職員の中に問題のある人がいるが、どのように対応しているか。

答 その職員の上司と一緒に本人を指導し、徳之島保健所の担当者が島に来たときにも一緒に指導して、先日20数頭の登録を済ませた。今後も注意して指導・監視を続けていく。

問 合併浄化槽の平成24年度の設置実績と来年度の見込数は。

答 平成24年度は24基ほどで、来年度は35基を見込んでいる。

環境課

問 平成25年度の当初予算に計上されている2億3500万円の工事請負費についての説明を。

答 工事は債務負担行為により26年度まで工期があることになっている。工事内容の主なものとしては、貯留槽の整備及びその上屋工事等である。

問 自然保護費の中のサンゴ礁保全対策事業委託料には、オニヒトデの駆除費のほかリーフチェックに係る費用も入っているのか。

答 オニヒトデの駆除とサンゴ礁のモニタリングに係る費用であり、リーフチェック関係は含んでいない。

産業振興課

問 奄美地域農業災害

施設復旧・強化支援事業費として5100万円が予算計上されているが、その内容は。

答 県単独補助事業だが、事業内容としては昨年の台風15・17号により被災した農家用施設（平張施設、ビニールハウス、畜舎に限る。）の早期の機能強化を伴った復旧支援を目的としたものである。

問 その補助率と補助を受けるための条件はどのようなものか。

答 補助率は事業費の2分の1以内で、条件としては、自然災害を補償の対象に含む農業共済、民間の損害保険、共済のいずれかに加入している者又は確実に加入が見込める者であることなど、いくつかの条件があり、その全てに該当する者が対象となっている。

問 予算には計上されていないようだが、台風被害を受けた後の大金久・中金久の防風林（モクマオウ林）の再生については、県の担当課との話し合い等は行われているのか。

答 県との話し合いはまだ行っていない。新芽が出ていないところと出ているところがあるので、しばらく待った上で、再生を必要とする場所を見極めてから県の方には申請したいと考えている。



台風被害を受けた防風林

商工観光課

問 コテージ村建設整備工事費として2900万円が計上されているが、その内容はどのようなものか。

答 アスレチック跡地にコテージ10棟を整備することとしているが、今年度は4棟を計画している。オートキャンプ等ができるような形とし、バスハウスの温水が使えるので、寝ることができただけの施設としたい。廃船のサバニなどを集めて与論の雰囲気味わえるようにしたい。

問 観光リニューアル整備事業費は廃目になっているが、施政方針の中に、老朽化した観光施設の整理及びリニューアル化の推進とあるのはどのようなことか。

答 施政方針の中にある観光施設の整理及びリニューアル化とは、ビクターセンターやビーチクリーナーの倉庫等を含めた別事業のことである。

問 ヨロンマラソンには650万円の予算が措置されているが、これで足りるのか。

答 苦しいながらも例年この規模の予算でやりくりしている。平成24年度の実績についてはまだ確定はしていないが、将来的には予算は増額していく必要があるものと考えている。



ヨロンマラソン2013

問 観光の振興は島にとって大変重要であると思うが、ヨロンマラソンも含めてこれだけの予算で大丈夫なのか。観光はブームが去ったら盛り返すのは難しいと思うのだが。

答 ヨロンマラソン事業費の650万円については、マラソンだけではなくヨロン島全体の宣伝費も含んでいるので、高いとは思わない。これからは島全体で、観光だけではなく教育・医療及び農業等も一体となった受入体制をつくっていくことが、肝要であると考えている。

建設課

問 空港の保守管理委託料の650万円は、郡内他空港の管理費の3倍以上になっている。喜界空港が180万円、徳之島空港が200万円を少し超すくらいとなっているが、高額となっていることの根拠は。

答 与論空港は平成17年から74人乗りの飛行機が就航しており、それに伴って消防車両も6000リットル級が1台増となった。与論空港で特によそと異なっているのは防火水槽に配管がなされていないため、防火水槽への給水も委託の範囲内でやってもらっていることである。このため、平成17年度からは県補助金も350万円ほど増額され、その分が上乘せされている。

問 空港の保守管理委託はずっと1社と随意契約で行っているが、その理由は。

答 空港に配備された消防車両は、空港運用時間内はいつでも出動できる体制であることが義務づけられている。また、与論空港の消防車を運転するには大型免許が必要であることに加え、消防車両1台につき2人以上の職員を配置して、有事の際は現場に3分以内で到着することが原則となっているため、競争入札に付することが困難であることから、随意契約しているものであり、委託料については県予算から出ている空港管理委託金を充当している。

教育委員会

問 従来、公民館費にあった自治公民館

の運営費補助金が1090万円減額されているが、どのような理由からか。

答 今まで自治公民館の運営費補助金事務は中央公民館の方で担当していたが、自治公民館の側からその事務局は町民の意見を広く反映できるように総務企画課に置いてほしいとの強い要望があったため、予算の組替えを行ったことによるものである。

問 外国語指導助手（ALT）招致事業費として463万2000円が予算計上されているが、臨時職員として見た場合、この給与額は高いと思われるが、指導助手はどのような取扱いになっているか。

答 本町に勤務しているALTは町の非常勤職員という取扱いに

なっている。給与等の支払いについては、そのとりまとめを行っている団体との協定によって決められているため、定められた金額を支払っている。

問 予算書を見ただけでは、教育委員会に何人の非常勤職員がいて、どのような職種があるのか分からないので、その説明を。

答 非常勤職員はALTと社会教育指導員の2人である。

水道課

問 水道施設については、かなり古い機械・機材・施設等があるように見受けられるが、管理上懸念されるような施設や改修を要する水源地等はあるか。

答 大きな改修を要する施設等はないが、機械・機材については古

い順から取り替えていけるよう予算を組んでいる。年間ベースで2300万円程度で対応できる状況にある。

問 配管施設整備費に予算は組まれているが、道路のあちこちに絆創膏のような跡

が残っている。給水管の復旧や老朽管の補修等の状況はどうなっているか。

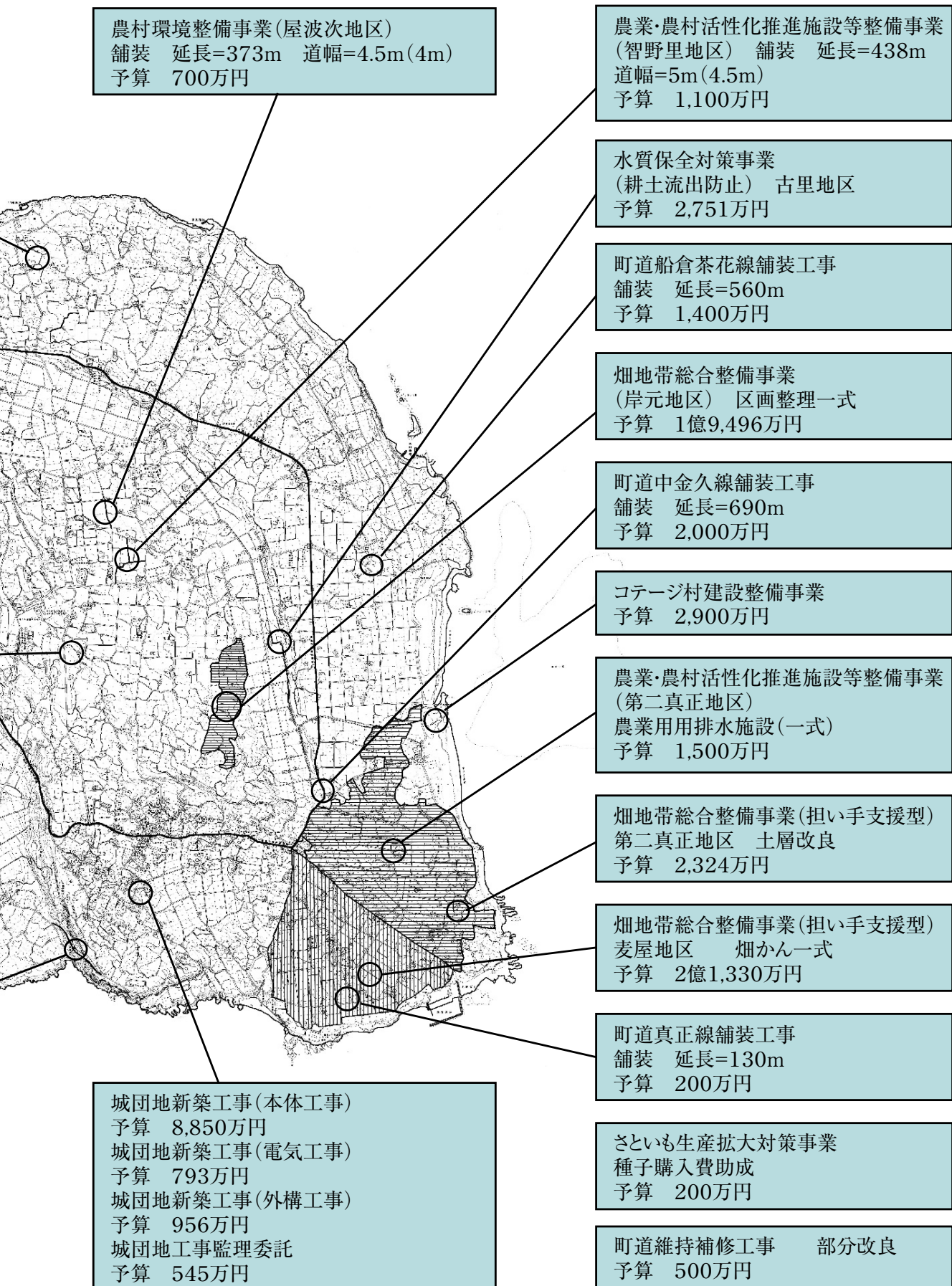
答 平成25年度は老朽管等の補修後の道路復旧については、新しい投資的事業箇所である古里船倉線、真正線等の県や町の道路工事と併せて敷



叶地区にある水道施設

設替えを行いたいと考えている。新たに掘って舗装するとかなりとかなり予算を要するため、現在の水道課の予算では対処できないからである。

事業箇所位置図



平成25年度

町道上田線改良舗装工事
改良舗装 延長=150m
予算 3,000万円

宇和寺団地擁壁工事
予算 400万円

さとうきび産地活性化推進事業
展示圃設置
予算 100万円

離島漁業再生支援事業
藻場造成・養殖・水産加工等
予算 2,148万円

町道那間茶花線改良舗装工事
改良舗装 延長=250m
予算 3,000万円

町道兼母源手名線改良舗装工事
改良舗装 延長=230m
予算 630万円

町道大道袋線改良舗装工事
改良舗装 延長=100m
予算 1,030万円

町道出之池線改良舗装工事
改良舗装 延長=140m
予算 1,340万円

町道德ノ上線改良舗装工事
改良舗装 延長=280m
予算 2,830万円

地域振興推進事業 堆肥散布車購入
予算 915万円

重点作物品質向上対策事業
トンネル施設整備
予算 160万円

造林事業
苗木購入費助成
予算 35万円

園芸施設整備支援事業 町一円
予算 300万円(30万円×10箇所)

農村環境整備事業(西賀甫呂地区)
舗装 延長=218m 道幅=5m(4.5m)
予算 440万円

経営体育成基盤整備事業(与論南部地区)
橋梁補修一式
予算 1億1,376万円

さとうきび優良種苗供給確保事業
町一円 予算 42万円

干害対策施設整備事業 町一円
予算 100万円



議員提案による決議

交通事故防止に 関する決議

全国の交通事故死者数は、4411人で12年連続減少となったが、鹿児島県においては87人で前年より9人増加しており、沖永良部警察署管内においても、3年連続して交通死亡事故が発生している。また、全国、鹿児島県の交通事故の発生件数及び負傷者数は、前年より減少したものの、沖永良部警察署管内は、発生件数、負傷者数ともに前年を上回ったほか、依然として飲酒運転に係る交通事故も発生するなど、憂慮すべき状況にある。

交通事故を起こさない・交通事故に遭わない。」という意識を高めていくことが必要である。よって、本町議会は、町民が安全で安心して暮らせる地域社会づくりを構築するため、交通ルールの遵守や正しい交通マナーの実践など、交通安全意識の高揚を強く呼び掛け、関係機関及び団体との連携を強化し、行政をはじめ町民一体となって交通事故防止に全力で取り組むことを宣言する。以上、決議する。

平成25年3月15日
与論町議会

犯罪の未然防止活動 の推進に関する決議

平成24年中における県下の刑法犯の認知件数は1万504件で、前年より100件減少したところであるが、沖永良部警察署管内における認知件数は63件

で前年に比べ14件増加し、平成14年から連続して減少していた認知件数が11年ぶりに増加に転じた。

刑法犯の中でも最も多いのが窃盗犯で、全体の約65%を占める41件を認知しており、手口別では、事務所荒らしや車上ねらい、乗り物盗が多く窃盗犯の半数近くを占めているが、そのほとんどが、家屋の無締まりや乗り物のドアの無施錠、あるいはエンジンキー付での被害である。

また、儲け話で現金を振り込ませるなどの特殊詐欺も2年連続して発生しているほか、架空請求詐欺やオレオレ詐欺等の相談も多数寄せられるなど、犯罪情勢は厳しい状況にある。このような厳しい状況を踏まえ、これらの犯罪を未然に防止し、町民が安心して暮らせる

地域社会をつくるためには、地域住民、関係機関・団体が一体となって「家屋の戸締まり、乗り物の施錠、エンジンキーの抜き取りの徹底や、振り込め詐欺等に対する広報啓発活動、金融機関窓口の対策、現金を振り込む前にまず相談」等の防犯意識を高めていくことが必要である。

よって、本町議会は、町民の生命、身体、財産を守る立場から、関係機関や団体と連携して、行政をはじめ町民一体となって「犯罪の未然防止活動」に全力で取り組むことを決議する。

平成25年3月15日
与論町議会

臨時職員の雇用管理等 の改善を求める意見書

本町の職員構成は、正職員よりも臨時職員の数が多くなり、役場

の業務は臨時職員の就労に大きく依存している実情にある。

こうした現状は、国・県からの行政改革の要請に依って職員定数を削減し行政のスリム化を図ったことや行政の情報化の推進等によることも一因であるが、他方においては、近年行政サービスが多様化・高度化したことに伴って業務量も増大したため、臨時職員を増やして対応せざるを得ない状況となったものである。

また、緊急雇用対策事業を導入して地域経済の活性化等を図ったことにより、新たに雇用された臨時職員が事業完了後も引き続き雇用されている事例が、一部には見受けられる。しかしながら、今後とも住民福祉の向上や町勢の発展を図っていくためには、行政を円滑に推進する必要がある。

ることから、臨時職員の削減も難しいのではないかと思われる。

臨時職員を取り巻く環境はこのような状況にあるが、その賃金については職務内容を精査した上で、JAや近隣町村等の実例も参考に、一定の見直しを行う必要があると思われる（別紙参考資料あり）。

また、臨時職員についても、資質の向上を図るとともに、豊富な経験等を重ねていくことが、職員全体の連携を緊密にしていく上で重要であることから、一定の期間で就労部署の配置換えを行うことが望ましいと考える。

さらに、ヨロン島観光協会、町社会福祉協議会、沖永良部・与論地区広域事務組合等の臨時職員についても、庁内の臨時職員との人事交流を促進する

ことで、能力の開発や組織の活性化にもつながり、職場のモチベーションも高まるものと思われる。

よって、町におかれましては、住民サービスの向上と職員の不公平感の解消等の見地からも、左記の事項について適切な改善措置を講じられるよう要望する。

記

1 臨時職員の賃金の見直しを促進すること。

2 臨時職員の定期的な人事異動を行うこと。

3 町が運営費等の補助を行っている外郭団体との人事交流を促進すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見を提出する。

平成25年3月15日
与論町議会

議会報告会

去る4月15日・16日・

17日には、校区別に会場を設けて、今年で4回目となる議会報告会を開催した。

内容としては、平成25年度当初予算の審議状況と事業箇所についての説明、平成24年に採択した陳情等の説明、今年1月に実施した県議会議員との意見交換会での要望事項についての報告などを行った。

3日間で79人の参加があり、質疑応答のほか、町民からは貴重な意見、要望、提言等が多数あったが、紙面の都合で全部を掲載できないのが残念である。今後も、町当局とも連携しつつ、町民参加型の議会運営を進めていく所存である。

城自治公民館

開催日時
4月15日（月曜日）
午後7時～午後9時

質問 県議会議員に県道の交差点改良を2か所要望しているようだが、鶴木商店の前も道が狭いので加えてもらえないか。

答弁 努力しているのだが、地権者の同意等の問題があり進んでいない。

質問 議会報告会以外で、町民の意見を反映させるためにどのような活動を行っているか。

答弁 農業団体や各種団体と意見交換等を行っている。議会側から出向いて話を聴いたり、要望があった場合

は常任委員会や議会全体で対応している。

質問 火事の際に、消防タンクに水がなくて消火活動に支障を来した件の対策はどうなっているか。また、集落内の道路事情によって大型消防車が入れないところがあるので、各集落にホースを配備しておくことなどはできないか。

答弁 各地区に畑のかがい施設があるが、畑かん組合と話をし、有事の際には利用できるようなになっている。消防団員の安全対策やホースの整備等についても、町当局と話を進めている。

要望 台風等により2年連続でさとうきびの不作が続いているが、安心してさとうきび栽培ができるようさとうきび共済の加入率を上

げてもらいたい。

要望 世界自然遺産について議会では話し合ったことがないようだが、議会で話が進んでいなければ町民は何も分からない。与論は一体どうするのか、議会でも音頭をとって町民にも啓発してほしい。

要望 火葬場の焼却炉は2基設置できるようになっているが、1基しか設置されていない。故障した場合は大変なことになるので、早く2基体制にするよう町に要望してほしい。



議会報告会（城公民館、4/15）

立長自治公民館

開催日時

4月16日（火曜日）

午後7時～午後8時半

要望 県議会議員への

要望事項にあった茶花小学校前交差点の県道整備の範囲については、「ばちばち」を過ぎる辺りまで整備してもらえようお願いしてほしい。

答弁（県では与論の）県道は近いうちに検討しようということになつてはいるようだが、町長から県の担当職員には、町道も県道と同時に整備すると伝えている。町議会も大田議長を中心にして今後とも陳情を続けていく。

質問 これまで宮崎県に送っていた焼却灰の処理場を（島内に）造るという話があったが、年内に造るのか。

答弁 最終処分場の工事は25年度中に完成の予定で、使用可能年数としては15年ぐらいで満杯になる見通しである。

質問 特別交付税は台風災害があったことにより増えたと聞いたが、要望すれば増やしてもらえるものなのか。

答弁 台風災害等特別の事情があった場合には、その被災状況等に応じてということになつてはいる。



議会報告会（立長自治公民館、4/16）

那間自治公民館

開催日時

4月17日（水曜日）

午後7時～午後9時

質問 自然保護費の中

のサンゴ礁保全対策事業委託料は幾らで、オニヒトデの駆除とサンゴ礁のモニタリングは誰がどこでどのように行うのか。

答弁 主にダイビング組合関係者が茶花のリーフで行うことになる。

要望 議会報告会としては資料が不足している。議員が汗をかいて作成した資料が一つもないので、県議との意見交換会の内容についてはそうした資料を示してほしい。

質問 予算審査特別委員会の審議内容に関してだが、島づくり対策費はどのような事業に

使えるのか、詳しい内容が知りたい。

答弁 自治公民館活動支援に100万円、一般コミュニティ助成事業に160万円である。

質問 県道交差点の改良整備については、地元の同意を得るために議員としてどう働き掛けてきたか。

答弁 地権者の同意が必要なことから、地権者を集めた会合を2回開催するとともに、個別の事情についての話を聴くため地権者宅も回った。役場の担当課である建設課の職員と共に県沖永良部事務所や県庁にも三度行った。

要望 慶応大学病院の近藤誠医師の著書によると、老人が不必要な診療、検査等を受けるのは健康に不安があるからで、不安を解消するには予算を検診に使

うよりも、在宅介護を中心とした福祉の充実に使ったほうがよいと書かれている。この資料を提供するので、議員さんにはよく調べて検討してもらいたい。

要望 サンゴ礁の保全・再生は、与論にとって大変重要な柱であり、生活排水の問題や農業の流出等種々あるわけだが、合併浄化槽の設置に関して、環境教育の普及・推進を図ってもらいたい。

要望 オニヒトデはサンゴにとって天敵であり、駆除するには予算等を集中し、エリアを区切って徹底的に行うことが大切であり、捕獲の仕方をいかに効率的に行うか、学術的・戦術的な方法で取り組んでもらいたい。

要望 保安林の整備に

ついて、モクマオウの新芽はもう出ていて再生を必要とする場所は見極められることから、早く県のほうに申請するよう督促し積極的に取り組んでもらいたい。

要望 奄振予算で輸送コストの軽減を図ってほしい。人口減・少子化対策が重要である。土地改良よりも花と緑の環境整備や廃船処理を進めてもらいたい。

要望 奄振予算で輸送コストの軽減を図ってほしい。人口減・少子化対策が重要である。土地改良よりも花と緑の環境整備や廃船処理を進めてもらいたい。



議会報告会（那間自治公民館、4/17）

一般質問

7人の議員が登壇、町政を問う

生産目標を実現するための具体策は

町長 地元優良農家による実地指導を行う。



林 隆寿議員

農業振興対策

林議員 与論町農業及び関連産業ビジョン策定業務報告書の中で、さとうきび・園芸・畜産の生産目標を実現するための課題と対策については分析がなされているが、具体的にどう推進していく考えか。

町長 今年度より農業基礎講座と地元優良農家による実地指導を開始している。ビニールハウスやかん水施設等の施設整備には町の補助や国の補助の活用を

進めていく。畜産の振興については、夏季の長大作物栽培や冬季のエンバク、イタリアングラス等の栽培により粗飼料の単収向上を図っていく。また、現在実施している高齢母牛の更新を一定期間集中的に続け、優良精液や飼料作物の種子購入に対する補助も続けていく。

林議員 報告書の中に、多様な若い生産者からなる委員会メンバーを母体とした部会を横断する活動組織を立ち上げ、定期的に会議を開き、今後の与論農業を考える場をつくらせたい。その必要性が痛感されるが、これ

までどのように取り組むか、具体的支援策をどう講じていく考えであるか。

町長 策定したビジョンの工程表では、平成24年度からその立ち上げに取り組むこととしていたが、災害が大きかったこと等の影響によりまだ設立されていない。平成25年度に立ち上げ、初心者農家育成システムづくりや農業人材バンクの検討と併せて取り組んでいく。

林議員 本町の地産地消活動としては、生活研究グループが運営する「まごころ市」とJA女性部が運営する「みのり市」のほか、個々の農家でも野菜の自給

生産を行っている。高齢者が農業に従事する環境の拡充と一層の定着を図る必要があると痛感されるが、今後これをどのように支援していく考えであるか。

町長 自分の野菜が一つでも売れる喜びと健康づくりのために、自分の生き甲斐を見つけて直売所に野菜を持つてくる仲間も増え、最近では野菜だけでなく薬草、手芸品等にも取り組んでいる。今後は退職者や高齢者の仲間



薬草（長命草）

観光再生対策

づくりの場所、働ける場所、お茶を飲む場所として、さらに発展し定着するようJAや各関係機関と連携しながら支援していく。

林議員 観光業の一環として農村観光を推進するため、農家民泊について調査研究がなされたと思うが、担当課をどこに定めて、具体的対策をどう講じていく考えであるか。

町長 今後は、一つの担当課では対応できないケースが増えてくるので、農業・観光だけでなく、教育・医療福祉との連携・協働で町民の所得向上を図っていく。

記念大会等のイベントの具体策は

町長 実行委員会等を早期に開催し内容を詰めていく。

観光振興対策



町 俊策議員

町議員 復帰60周年・町制施行50周年・パナウル王国建国30周年等の記念大会や昨年の台風災害からの復興をアピールするイベント等を実施するとあるが、具体的にどう考えているか。

町長 各地与論会への日程の周知等もあり、昨年準備検討委員会を立ち上げ、40周年の反省も踏まえながら、開催日程、記念行事等の概要を検討してきた。要綱に基づき、運営委員会、実行委員会等を早期に開催し、各般の意見も聞きながら、各種イベント等の具体的な内容を詰めていく。

な内容を詰めていく。



与論島ファン感謝祭（6/1）

町議員 航空会社や船会社と緊密に連携して、年代層別のモニターツアーを実施するほか、全国各地の旅行会社社員を対象としたモニターツアーを実施して、商品構成を共に企画するなど、旅行会社の店頭にも本町の観光パンフレットを置いてもらえるよう取り組んでいく考えはないか。

町長 基本的に、宿泊施設や観光施設等の共同企画型のイベント企

画や旅行商品の造成依頼でなければ効果はなく、老朽化が進む島内宿泊施設では紙面スペースを確保するのが大変難しくなっている。今後の打開策としては、宿泊施設等の時代ニーズに合った設備整備とネット系での販売に重点を置くべきと考える。

町議員 町内の宿泊施設がダイビング、ウィンドサーフィン、釣りなど、得意とする受入れ・案内商品をもつことで個性化を図り、アピールに努める体制づくりを指導していく考えはないか。

町長 お客様に満足いただくため何ができるかを考えることから始め、島全体でサービス向上が図れるようお客様からの声を各施設やそれぞれの組合で、十分に検討する場を設

け、一層のサービス向上に向けて改善を図っていききたい。



完成した温水プール

町議員 観光協会及び宿泊施設に対し、悪天候時に受入れ・対応のできるイベント開催を企画し、協働して取り組むよう指導していく考えはないか。

町長 悪天候時の対策として、イベントを開

催することは考えていない。現在あるゆんぬ体験館やB&Gプール、砂美地来館・屋内多目的運動場等を活用した各種体験メニュー等をお勧めするよう、各宿泊施設に指導している。ショー的な公演の必要性は感じているので、今後の課題として各種文化団体等と検討しながら進めていきたい。

総合的な防災対策事業の計画・推進を

町長 総合的な視点から適切な対策を検討していく。



喜山康三議員

地域防災対策

喜山議員 広域事務組合に対する国の財政支援措置は平成21年度からメリットはない。本町単独で消防署を設置しデジタル無線も整備した方が、地域防災及び財政負担上は合理的でありメリットもあると思うが。

町長 設立当初とは状況も異なってきたことから、両町との調整はもとより、消防議会等の意見も聴きながら、慎重に検討していきたい。

喜山議員 今までの海浜防災や減災事業の在り方を改め、海浜や海

浜植生帯の養成等による自然の防災機能の復元、道路付け替え等を含む総合的な視点での防災対策事業を計画・推進していく考えはないか。

町長 南海岸防災基本計画策定委員会を設置して、県の技術的な指導・助言をいただきながら、総合的な視点からの合理的かつ適切な施設配置を考慮した防災対策事業を検討していく。

職員の処遇改善

喜山議員 本町職員のラスパイレース指数の実情及び郡内でのランクはどうなっているか。

町長 本町職員のラスパイレース指数は、89.9%である。順位は低い方から伊仙町に次いで2位となっている。

喜山議員 管理職手当

時間外勤務手当の支給率等の実態及び時間外勤務・休日勤務はどのような実情にあるか。

町長 管理職手当は3%、時間外手当はそれぞれ給料月額額の2%上限で支給している。なお、総支給額は平成23年度実績で、管理職手当193万8658円、時間外手当584万4824円となっている。

喜山議員 臨時職員の割合が55%を超え重要な戦力となっている。臨時職員の雇用環境は不安定なことから、職員間の協力・信頼関係を一層醸成するためには、処遇改善等を行ってその安定を図る必要があると思うが、対策をどう考えているか。

町長 賃金を含む処遇改善等については大きな課題であり、大分県姫島村における取組等

も参考に、抜本的な給与体系の見直しを含め、検討していく必要があるものと考えている。

平成25年度事業

喜山議員 平成25年度の最優先事業は何か、

振興計画との整合性をどのように図っているか。

町長 ①最終処分場整備事業②城団地整備事業③農道等整備事業及び県営土地改良整備事業④コテージ村整備事業及び寺崎公衆トイレ整備事業⑤中央公民館の指定管

コテージ村整備事業予定地

理を優先して実施する。災害による緊急を要する事業については、更に優先して実施することとしている。



学芸員資格を有する職員の採用を

教育長 教育委員会に配置を検討したいと考えている。

人づくり



麓 才良議員

麓議員 学芸員資格を有する専門職員を採用・配置して、町内各地域の発掘調査等を行えば島興しにも波及効果をもたらすと期待されるが、町長はどう考えているか。

町長 学芸員の配置については、極めて重要なことであると認識している。しかしながら、現下の本町の採用計画では25年度・26年度・27年度・28年度に定年退職を迎える職員が多く、その補充や他の専門職の配置も必要となつていくことから、今後長期的視点で検討していきたい。



茶花こども園

教育長 学芸員は、博物館法で定められた専門職員であり、当町出身者で他の町村で活躍している者もいる。また、現在大学で資格取得中の学生もいると聞いている。このような有資格者の知識、技能を発揮してもらうためにも、今後、教育委員会に学芸員の配置を検討したいと考えている。

麓議員 三つ子の魂百までといわれるように幼児教育は重要であることから、島ぐるみで子育てに取り組む施策の一環として、子ども園等において高齢者と

の日常的な触れ合いを実現するため、協議の場を設け検討していく考えはないか。

町長 町立の3こども園の、年間行事の中では、例えば園の運動会において、また集落敬老行事等の際には園児と祖父母等が触れ合う活動などが、高齢者との交流を行う貴重な機会となつている。

今後は、保育及び幼児教育の現場や保護者等のニーズを踏まえながら、交流活動の場・機会及びその内容の更なる充実に向けて検討を進めていきたい。

教育長 「子供は島の大切な宝」という共通認識のもと、島ぐるみで子育てに取り組んでいくことは、児童・生徒の健全育成にとつて重要な視点であると思う。

これまでも、各こども園や各小・中学校に

において、昔話や遊び道具の作成活動等による高齢者との触れ合いを行ってきた。

そこで、教育委員会としてもこれらの取組を更に充実させて、高齢者との日常的な触れ合いを深めていくことができるよう、各こども園長をはじめ、老人会等の各関係団体と協

議していきたい。

麓議員 花いっぱい活動はパナウル王国の理念でもあることから、子ども会、女性団体、老人クラブなど、地域で一体となつて取り組むことが望まれるが、その具体策等を検討するため、協議の場を設ける考えはないか。

町長 自治公民館長を交えた協議の場を持ち、自治公民館の環境部も加えて、花壇や路傍の花づくりを推進し、面や線としての花いっぱい運動を展開していきたい。



花壇（那間第一子ども会）

換地処分登記の精算の進捗状況は

町長 今後、精算事務委託の拡大等により進めていく。



供利泰伸議員

農業農村整備事業

供利議員 各地区の面
工事については、現在
進行中の岸元地区を除
き、換地処分登記は完
了していると思われる
が、増減分の精算の進
捗状況はどうなってい
るか。

町長 農業農村整備事
業の清算事務の進捗状
況については、真正地
区、第二真正地区、及
び那間地区の3地区に
おいては増減調書の作
成が終了し精算を進め
ており、これが終わ
り次第各地区の清算委員
会を開催し、清算完了
に向け進めていく。
叶地区については、
一部の土地登記が終了

後に進めていく。立花
地区については、平成
24年度に登記が完了し
たので、今後増減調書
作成などの清算事務を
一部委託しながら進め
ていく。

さらに賀義野地区及
び第二那間地区につい
ては、換地処分登記が
完了後同様に進めてい
く。兼任職員で対応し
ているのが現状であ
り、今後土改連等への
事務委託の拡大等によ
り進めていく。

観光の振興対策

供利議員 町総合振興
計画によると受入れ対
策として、癒し型の探
索ツアー等の新旅行商
品を造成することにも
沖縄ツアー商品と現地
ツアー商品との複合
型プランの造成等を図
るとあるが、具体的に
はどう考えているか。

町長 癒し型の探索ツ

アー等の新旅行商品に
ついては、長寿の島の
家庭料理レシピ（平成
19年度制作）による地
場産の食材を活用した
ヘルシー食の郷土料理
教室での受入れや、各
種事業を導入したパ
ワースポットの整備及
び既存の施設を有効活
用できるような徐々に改
善を図っている。

また、城跡を中心と
した文化財探索コース
整備等が一例である
が、奄美群島観光物産
協会の事業と並行し
て、島の資源を大いに
活用できるようエコツ
アーガイドの養成等を
図りながら推進してい
く。

さらに、一昨年から
観光協会が沖縄県コン
ベンションビューロー
に準会員として加入で
きたので、各種情報の
提供を受けながら、島
の独自性の創造に努
め、イベント等に積極

的に参加して知名度の
アップに努めていく。

供利議員 町総合振興
計画では、各種スポー
ツ大会や合宿等を誘致
するとしているが、ス
ポーツ施設の整備も大
会の開催や冬場の合宿
誘致も遅れているよう
に思われる。計画を推
進するため、今後どう
取り組んでいく考えで

あるか。

町長 スポーツ合宿が
もたらす経済効果につ
いては、十分認識して
いるが、大会及び合宿
等が誘致できるような
競技会場の整備等が、
近隣市町村と比べ大き
く遅れていることか
ら、特長のある会場整
備に向けて担当部署と
協議していく。



パワースポット（ハジヒキパンタ）

新庁舎建設検討委員会の設置時期は

町長 平成25年度早々にも委員会を設置したい。



高田豊繁議員

新庁舎の建設対策

高田議員 現庁舎の老朽化に伴う新庁舎建設検討委員会の設置時期は、どう計画しているか。

町長 地域防災計画の見直しがなされ、防災面における役場機能を含む新地域防災計画も策定されたことから、平成25年度早々にも新庁舎建設検討委員会を設置し検討していきたいと考えている。

高田議員 庁舎を移転することとなる場合は、特に、現庁舎周辺一帯で経済の空洞化が起きないよう地域の経済活性化対策を並行し

て計画し、実施していく必要があると痛感されるが、どう考えているか。

町長 役場を中心とする経済圏の形成は先人の長年の努力の賜であり、今後、早急に建設検討委員会を設置したい。その上で、移転が現在地とするか、移転の場合の現周辺商店街の活性化対策、現在地の場合の役場の防災対策、移転時期、財源等々について検討していきたいと考えている。

さとうきびの振興対策

高田議員 平成25年度の新植苗穂の確保のめどはついているか。

町長 平成25年春植えの苗は、採苗用のほ場の確保が困難なことから、9ヘクタール分の苗については、種子島から購入し、その他の分については1月に

行った校区ごとのさとうきび出荷説明会において、自分のほ場から良い苗を利用してもらうようお願いした。夏植え用の苗については、今のところ十分確保できる見込みである。

高田議員 さとうきびの被害救済対策である農業共済の加入率が低いと指摘されているが、今後の加入促進対策として、自動継続加入を条件に町が期限付きの助成策を講じる考えはないか。

町長 さとうきび共済の加入率については、昨年の実績が戸数比で38%、加入面積比で47%と低く、2年連続の不作で未加入農家はかなりの収入減となった。今回の不作と災害を契機に、少なくとも80%以上の加入目標を設定して、平成25年度

に限っては農家負担分の掛金の一部助成を行い新規加入を推進していく。

高田議員 生産地とし



さとうきびほ場

て安定的な発展を遂げるためには、農家・製糖会社・工場・JA等が一体となって、生産性の向上対策や経営の合理化対策に連携して取り組むことが重要であると痛感されるが、与論島製糖株式会社に対して、本町内への本社移転を要望する考えはないか。

町長 本社が鹿児島市にあることとで、しばしば決裁待ちの状態となり、迅速に連携して取り組むことができないときもあることから、町内への本社移転は実現すればかなりのメリットがあるので、今後会社に対し強く要望することとしたい。

さんご礁再生・保存の具体的対策は

町長 赤土流出防止・地下水汚染防止対策を進める。

環境プロジェクト



林 敏治議員

林議員 パナウル王国を宣言している本町においては、花と緑のまちづくりを推進するとともに、さんご礁を再生・保存していくことが極めて肝要であると痛感されるが、具体的対策をどう推進しているか。

町長 花と緑のまちづくりについては、平成14年3月に与論町環境総合計画（パナウル王国の環境憲法）が策定されている。それに基づき、町民や観光客が島の雰囲気を楽しめるような花木などを増やし、自然と環境の意識が高まるような美しい



リーフチェックに出発

まちづくりに努めてきた。

平成25年度においては、「美ら島づくり費」を予算計上してある。各種団体への花の苗提供や路傍植栽を実施し、町民に協力を求めながら、これまで以上に、花と緑が増えていくようなまちづくりを推進していく。

次に、さんご礁の再生・保存については、海の自然環境はさんごや熱帯魚をはじめ、生物多様性に恵まれており、未来に残さなければならぬ島の貴重な財産である。このよう

なことから、島周辺の海水汚染対策を講じることが肝要である。

その方策として、赤土流出防止対策や化学肥料の適期適量施肥の推進、生活排水による地下水汚染防止のため浄化槽設置整備事業を推進してきた。

そのほかにさんご礁保全対策事業として、オニヒトデ駆除、数箇所の海域モニタリングによるさんご再生状況観察を実施している。その結果として、数年前からさんごの再生状況が改善されている所もある。

今後、多くの関係者の意見も参考にして、現在実施していることを継続しながら、それぞれの目標に向って、息の長い取組を続けていきたい。

人づくりプロジェクト

林議員 働く意欲と能力をもった高齢者の生きがいづくりと健康づくりのため、シルバー人材センターの設立については今後どう推進していく考えであるか。

町長 本町は当分の間、多額の財政支出を要する先送りのできない大型施設の整備・補修・建て替え事業等を年次的に予定しているため、脆弱な自主財源と相まって、今後の財政運営については、なお一層の厳しさが懸念されるところである。従って、提案の事業実



パワーあふれる老人クラブ連合会

施については、より慎重に判断せざるを得ないというのが現在の考え方である。先進事例に係る情報を収集し、事業ニーズ等もしっかりと踏まえた上で、中長期的な行政課題として検討していきたい。

わたしもひとこと



米森 基 氏

校區は島内全域

プロフィール
 ○氏名 米森 基
 ○住所 与論町朝戸
 ○職業 与論中学校長

与論島は三校の小学校区に分かれ、それぞれが特色のある素晴らしい教育実践を行い、地域とともに子供たちを育てています。

その三本の矢の一つにまとも、より強い絆で結ばれるのが、一島一中の与論中学校です。当たり前と言え、島内でも中学校校区の一つの島で成り立っているのは、昨年から喜界島が統合されましたが、それまでは与論島だけでした。二年前に赴任してきた私は、まず、校区を隅から隅まで歩いて、生徒と地域の様子を知ろうと考え、土曜・日曜を利用して妻と歩き始めました。一年目、観光客と間違えられることしばしば、時には牛舎に呼び込まれ与論献奉の出迎えを受け、帰りが大変だったこともありましたが、歩く途中で出会う地域の方々は、私が与論中の職員だと知ると、「子供は島の宝、子供たち

をお願いしますよ。」という言葉が必ず返ってきます。地域が子供に対して温かい目を向けてくださることへの感動と職責の重さを感じる一瞬です。夏休みになると、ほとんど午後五時過ぎから、新しい道を求めて歩き回っていました。きび畑の道も通ります。大きなバッタの多さにも驚きながら、「これ食用とか、飼料にはならないのかなあ。」「なつていたらとつくに地元の人がやっているはず。」といった対話も出てきます。軒先に、自転車とタスキにヘルメットがあると、誰の家だろうと表札をのぞいたり、車からは気付かない草花や貝殻の飾りを見つたりすることも多々ありました。

二年目は、何といっても台風被害、せつかくのきびもなぎ倒され、住宅の被害、海岸の被害、至るところ痛々しい限りでした。ハイビスカスの花がほとんど飛ばされた時期に、三時間ほど歩き回ってやつと十四個の赤い花びらを見つけたこともありました。生徒たちはというと、自分たちでできることを考え、体育大会や文化祭の学校行事で地域の方々に元氣を取り戻しなりました。一歩一歩復興していく島内、少しずつ庭や道端に花を見つけられるようになりました。今年、正月過ぎには緋寒桜が咲き始め、三月には島内に六十四人、島外に四人の卒業生を送り出しました。



与論中学校

三年目の始まりは、与論中出身の関取千代皇関の誕生、そして九重親方とのがい旋、島内は大きな感動と勇気を頂きました。親方と千代皇関に本校を訪問していただき、親方は「こつこつと努力を続けること」、千代皇関は「好きなことを一筋に続けること。」の大切さを生徒たちに話してくださいました。

編集後記

あつという間に連休も終わり、夏もすぐそこまで来た。年始めから鹿児島市での議員研修会、沖永良部・与論地区議会議員大会、3月定例議会、奄美群島市町村議員大会等と出張や研修に追われた。それぞれの議員が内外のニュースや政治経済等の動向に注意を払いながら、地域住民、役場との情報交換などを通じて、様々な形で島の課題解決等に取り組んでいる。中でも、身近な問題や要望・意見などを、気軽に相談を受けることとどううれしいことはない。いつでも何なりと寄せていただきたいものである。ここに第107号を発行できたことを、町民及び関係各位に感謝申し上げる。